

私にも  
言わせて!  
第18回

健やかに暮らせる地域づくりを



宮城県塩釜保健所  
技術副参事兼技術次長  
照井 有紀

岩手県生まれ。平成6年山形大学卒業。平成24年1月宮城県県庁入庁。宮城県東部保健福祉事務所(石巻保健所)勤務。平成25年8月より現職。

1億2000万人の健やかないのちをまもりたい  
それを脅かすすべてのものから  
公衆衛生には、それができる」と信じて

きつかけは  
3・11の年の夏の日

震災の翌年、平成24年1月に私は宮城県に入庁しました。それは、前年の平成23年夏のある日にかかってきた一本の電話が始まりでした。

「保健所の仕事に興味はありますか？」

正直、興味も何もそれまでの私は保健所の仕事についてほとんど知りませんでした。

大学卒業後の12年間で、私は消化器内科医として山形県内各地の病院に勤務しました。進行がん・末期がんの患者さん、進行した肝硬変の患者さん、口から食べることに

が困難になってしまった高齢者の患者さん等「治らない患者さん」とのかわりはいまでも忘れられない思い出が多いです。死期が迫ってきた患者さんたちは不思議なほど必ず「家に帰りたい」と口にしましてお手伝いができず本当に悔しかったです。

そんなこともあり、私は山形を離れ縁もゆかりもない関東の地で在宅医療の世界に飛び込んでみることにしました。病院から「地域」へ出た私には世の中はとても魅力的でした。もちろんいいことばかりではありませんが、病院と違ってそこには生活がありました。患者さんとそのご家族から生きると

いうことをたくさん学びました。世の中にはこんなにもたくさん「生き方」がある。そして人はかわりの中で生きているということを知りました。在宅医療は本当に楽しかったのですが、その一方で、「何か足りないもの」について考えるようになりました。

あの夏の電話のあと、保健所の仕事について話を聞くために宮城県の公衆衛生医師のお二人に会う機会をいただきました。はっきりいって保健所の仕事についてはよくわかりませんが、簡単には伝えられないということなのだろうと思いました。そして、私は先輩方に「ぶれない信念」を勝手に感じ、先輩方は使命感をもって仕事をしているのだと勝手に理解しました。この出会いによって、私はこの世界に飛び込むことを決めました。

そんなこんなで私の公衆衛生ラ

イフは平成24年1月、石巻の地でスタートし、あっという間に4月になり国立保健医療科学院での約3か月の研修が始まりました。

貴重な研修と  
新しい「出会い」

研修では慣れないことが多く苦痛なこともありましたが、いまでは貴重な経験だったと考えています。まず「仲間」ができました。この仲間によって支えられたり、この仲間が新しいところに連れだしてくれたり、改めて「出会い」の大切さに気づきます。次は、貴重な講義です。准看護学校で公衆衛生の講義をすることになり、あわてて研修のときの資料を引っ張り出して読みました。「一言でいえば、「いま一度聞きたい」ありがた内容が満載です。

今年度より、鹿児島県伊集院保健所長の宇田英典先生の研究室

に参加しています。これも仲間を通じてのことです。今年の8月30日、9月1日に「公衆衛生若手医師・医学生サマーセミナー」を研究班主催で開催しましたが、こんなにも真剣に公衆衛生に興味をもつ若い人達がいることに驚きましたし、私の中のまだもやもやとしていた「公衆衛生」が、彼らのおかげで少しくリアになったように感じた瞬間でもありました。

セミナー開催以外にも研究班で「公衆衛生医師募集」のポスターを作製しました。公衆衛生に関心のある人はもちろんですが、それだけでなく公衆衛生医師にいつかいい関心のない人たちの「目」を止まらなくしたいな、と思っと思っています。



事務所の窓からの風景。仙台と石巻を結ぶ「仙石線」(被災によりいまだ一部不通)の向こうには海が広がっています



1億2,000万人の  
生を衛る医師。

私たちが、1億2,000万人の生命をまもりたい。  
私たちが、1億2,000万人の生活をまもりたい。

私たちが、1億2,000万人の命を守りたい。

世帯ごとに出発して、さまざまな地域に「公衆衛生」の  
命を届ける。公衆衛生の使命を担う。

人が健康であることが、  
それは誰にも病気のないまじき生活ではないはず。

1億2,000万人の健やかないのちをまもりたい。  
それを脅かすすべてのものから。  
公衆衛生には、それができる。と信じて。

私たちが「公衆衛生医師」です。

保健所や県庁などで働く公衆衛生医師を  
全国のさまざまな自治体で  
募集しています。

公衆衛生医師募集



全国保健所長会  
Japan Public Health Association

日本公衆衛生協会  
Japan Public Health Association

「みんなの願い」をポスターに込めました。全国保健所長会HPからダウンロードできます

公衆衛生の使命を果たす

この8月から宮城県仙台保健福祉事務所勤務(塩釜保健所)となりました。仙台とついでにありますが、仙台市の保健所は別にあります。未曾有の大震災によってさまざまな課題がくつきりと浮かび上がりました。

「福島だからこそ、この経験をしたからこ

そ、日本でいちばん健康な県をめざす！」

福島県のある先生の言葉です。私も思います、あの震災を経験したからこそ、宮城県は日本では「健やかに暮らせる県」になりたいのです、いつの日か。そのため、みんなで力を合わせ、知恵を出し、公衆衛生の使命を果た

したいと思います。

その昔、肝臓屋をしていたころ、私は「百戦錬磨のベバトロジスト」にあがれていました。これからは、技術と経験に裏打ちされた公衆衛生の匠をめざし、「百戦錬磨の公衆衛生医師」になれるよう日々修業していきたいと思っています。